

〔第27回学術集会 委員会横断企画〕

将来構想委員会/広報委員会/実践促進委員会

## COVID-19 感染拡大をうけて家族に何が起こったか？ —さまざまな医療・介護・療養現場からの情報発信—

井上 玲子 上別府圭子 荒木田美香子 鈴木 和子  
式守 晴子 安武 綾 野々山敦夫 児玉久仁子 井上 敦子

2020年初頭より、世界中に拡大した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、未だ終息の兆しが見えません。そのため私たちの生活は一変し、感染への恐怖や不安をかかえながら日常を過ごしています。また医療現場では、生命に不安を抱き入院した患者、面会ができず困惑した家族など、緊迫した環境の中、ウイルスに戦いながら、厳しい現実の中で人々に対峙する医療スタッフがいます。

このような中、日本家族看護学会ではCOVID-19により、家族に生じた課題と支援について情報収集し、学会としての取り組みを検討、現状を共有していくために、委員会横断企画を開催しました。現在、医療・介護・療養現場でCOVID-19に奮闘している5名の実践家の皆さまに、話題提供者としてご登壇いただきました。

児玉久仁子先生は、実践促進委員会から「COVID-19感染拡大における家族支援専門看護師からのアンケート調査」をご報告していただきました。全国26名の家族支援専門看護師にご協力いただき、COVID-19により発生した家族への影響をまとめ、話題提起していただきました。

佐藤奈津先生には、「COVID-19により心肺停止の患者家族へ与える影響」と題して、大学病院のERの現場から、COVID-19患者が命の危機にさらされたとき、その家族と関わる看護師に何が起きているのか、その現状をご報告いただきました。

高橋佳織先生には、「COVID-19患者家族とのかわりを通して」と題して、感染症指定病院から家

族と面会できぬまま亡くなる患者とその家族の様子をご報告いただきました。その中から、家族への関わりを模索する看護師の葛藤が見えてきました。

榎本美由貴先生には、「家族との過ごししかた」と題して、訪問看護ステーション看護責任者の立場から、COVID-19におびえつつ在宅で過ごす利用者・家族の生活の様子をご報告いただきました。高齢者や基礎疾患を抱えながら在宅療養している人々にとって、COVID-19がいかに心理・社会的な影響を与えているか、ご説明いただきました。

田村恵美先生には、「小児領域での混乱と家族ケアの工夫」と題して、小児専門病院からのCOVID-19による影響をご報告いただきました。院内感染を予防するため、面会厳禁とされた子どもたちに対する家族看護の工夫をお話いただきました。

最後に石川亜衣先生には、「感染拡大を受けて高齢者施設の取り組み」と題し、介護老人保健施設から介護現場での取り組みの様子をご報告いただきました。認知症高齢者の感染症対策と家族ケアとの両立の困難さについて、施設内での取り組みのご報告をいただきました。

COVID-19は現在の社会に突き付けられた重要課題で、本企画の限られた時間の中で、家族看護の課題を改めて検討する時間となりました。それぞれの現場で抱える問題は異なりますが、学会としましては、これから看護方略を導き出す手がかりとして、皆様と共に継続的に本課題を検討していきたいと考えております。